

< いばらき建設技術研究会 第5回運営委員会議事録 >

1. 出席者名: 13名

所 属	氏 名	所 属	氏 名
地質調査G	松本 政文	大学G	吳 智深
	岩野 宏幸		神子 直之
鋼橋G	庄司 裕一	PC G	海老沢 敬一
建設G	新井 洋治		手賀由成
	井坂 實		小坂 光治
造園G	川上 一夫		中村洋一
事務局	團部 武正		

2. 討議結果

(1) 運営委員会の参加者について

・ 吳運営委員長から、運営委員の出席が芳しくないため、出席率を上げるため真剣に取り組んで行く必要がある。このための方策を考えてほしい、……その他の事項参照

(2) H18年度土木学会関東支部技術研究発表会開催協力依頼について

- ・ 本日(1/20)、県の三浦土木部長に開催の協力依頼について、安原会長、神子先生、事務局團部でお伺いし、基本的に協力して行きたいとのこと、具体的に実行委員会立ち上げや開催内容がある程度明確になった時点で県の参加体制を決めたいとのこと。
- ・ 同様の協力依頼について、今後資料3ページに挙げた県内各団体の長宛、文書を以て依頼して行く。ただし、具体的な宛先は茨城大学で決めて行くこととするが、いばらき建設技術研究会の賛助団体ともなっているため、今後、協力体制の整理と協力の内容について、並びに研究会の役割について具体的に詰めて行かなければならない。
(例: 人的協力、企画運営協力など)
- ・ 6～7月の実行委員会立ち上げを目標とし、事前の4～5月に準備委員会を開催し、概ねの発表会の構想を決めることとする。

(3) 関東甲越4県ランチアンケート結果について

- ・ 資料4～6ページに掲載、栃木県ランチからの報告が未掲載のため、引き続き催調査を続行する。
- ・ 関東支部行事としては、11月の「土木の日」関連で講演会や現地見学会を開催しており、その他は、会の独自活動を行なっている状況となっている。
- ・ 方向性として地方組織の独自行事と関東支部行事は、両立することができるため、「いばらき建設技術研究会」がランチとして活動する可能性は十分にあり、かつ活動の幅や組織の幅が広がる可能性が出てくるため、研究会がランチを併称することは推奨できる。
- ・ 関東支部作成の「ランチ活動ガイドライン」によれば、ランチの運営は、土木学会員が中心となっており、主要な役員は、土木学会員ととなっている。すなわち地方組織は、土木学会員以外の会員を排除するものではないし、ランチの活動は自主的に運営できることとなっているので、産官学からなる当研究会は適任である。

(4) 本年度の関東支部技術発表会での各県ランチ紹介コーナーの展示について

- ・ 展示サイズは、A2版とし、案は、資料7ページに沿って事務局が中心になって作成し、開催当日に国土館大学に持参し展示する。

(5) いばらき建設技術研究会が茨城ランチとなる条件整理について

- ・ 資料8ページの通り、組織の拡充をと執行体制の強化策について今後取り組む。
- ・ つくば関係の国機関、大学等へは、依田関東支部長から機会を作って茨城ランチとしてのいばらき建設技術研究会活動の話をしてもらうこととし、いばらきランチ活動の協力依頼とできれば、いばらき建設技術研究会参加を働きかけてもらうこととする。
- ・ 新しく参加があれば運営委員会へも参画してもらい、執行体制の強化を図る。

(6) その他の事項

現在のいばらき建設技術研究会のホームページをもっと見栄えがするよ

うにホームページ作成会社に委託してどうか？

次回運営委員会に見積額等を提示し承認を得る。

各運営委員から運営委員会の議題を提案してもらおう。また、運営委員会で議題討議前に20～30分話題提供してもらおう。内容は何でも可とする。

運営委員会を活発化するため、運営委員の公募をしてはどうか？

ホームページ等で募集案内を行う。

本年度開催の関東支部技術発表会(国土館大学)に研究会から参加してどうか？

正式派遣と言うことでなく、個人の範囲内で参加してもらおう。

橋梁点検分科会が取り組んでいるような行政に対する提案ができるような取り組みを今後進める。

アイデア、キーワードなどを是非提案してほしい。会員にもホームページ等で呼びかける。

次回運営委員会は、3月3日(金)(現在調整中)とし、友部町、笠間市の現地見学を兼ねて、第6回運営委員会を開催する。